



Eiche

Die Eiche ティ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町2-518-1 清和会第2ワールドナースィングホーム

Tel 047-461-9111 Fax 047-461-7010

親睦日帰りバス旅行～秋の房総巡り～



東京ドイツ村マルクトプラッツ前にて



御宿歴史民俗資料館(中央、名札姿が伊藤氏)

当協会主催のバス旅行が爽やかな秋空の下、2年ぶりに10月26日(金)実施された。本企画は6月23日の運営委員会に提案され、9月8日3回目の同委員会で決定され、9月14日発行の「Die Eiche」で募集を開始。旅行の催行・不催行を判断するための参加申し込み締め切りは9月27日となったため、参加申込期間が短く参加者が集まるか否か多に危惧された。案の定、締め切りが過ぎても30名目標に対して20名程度しか集まらず、事務局、運営委員、理事の格闘が始まった。電子メールや電話攻勢の結果、徐々に参加者が増え10月6日には目標の30名に達し、担当者一同、一安心。その後も増え続け、最終的には38名の申し込みとなったが、当日は、体調不良や不都合により2名がキャンセル、36名で実施された。8時30分、千葉駅近くのNTT前から立派な大型バスで出発。ほぼ定刻通りに東京ドイツ村に到着し、園内をバスで一周した後、同園事業部の金崎福男氏から村の概略を紹介していただき、マルクトプラッツで記念撮影後に自由行動となった。広大な園内ではコスモス、キバナコスモス、ラベンダー等が咲き誇っていた。また、クリスマスに向けて多くのイルミネーションが準備されており、その大きさが目に浮かぶようであった。マルクトプラッツに昨年「日独交流150周年」を記念してドイツ連邦共和国大使館から寄贈、植樹された菩提樹は、台風で傷付いたとのことだが可愛い新芽を出し元気に育っていた。次いで、いすみ市東頭山行元寺を訪問した。まず8歳のご住職からご本尊の阿弥陀如来佛の説明を受けた。1150年の歴史を有し、平重盛や徳川家の庇護の下、天海大僧正を初めとして多くの学僧を輩出した。日本一大きな徳川家の「大葵紋」も自慢の一つである。

次いでヨーロッパのジャポニズム(ゴッホやドビッシー等)に大きな影響を与えた浮世絵師・葛飾北斎の話にうつり、北斎の『富嶽三十六景』の代表作のひとつ「神奈川沖浪裏」の波頭が崩れる様は、写實的に優れた静止画として高く評価されているが、実は、安房鴨川出身の彫刻師「波の伊八」こと宮彫刻師・武志井八郎信由の影響を受けたものであると言われるとのこと。そして、一同奥の間の欄間彫刻「波に宝珠」に案内され鑑賞した。確かに、立体的・躍動的な波が大変印象的であった。ここで1時近くとなり、次は待望の昼食である。大原の割烹「かねなか」では刺身定食を基準とし、生ものがダメな方は「天ぷら定食」ということでバスの中で前以て注文を取っておいた。ビールやソフトドリンクも提供され、綿貫尚氏の音頭で乾杯、食事が始まった。食事時間が午後1時を過ぎたこともあり、皆さん大いに満足。四番目の訪問先は、伊藤庸一氏のドイツ留学と同氏訳絵本『ぼうぼうあたま』でドイツと関連がある御宿歴史民俗資料館および五倫文庫であるが、それに先立ち、五倫文庫理事長・伊藤良昌氏(庸一氏のご次男)の旧宅を見学した。印象的だったのは、ただの茅葺き屋根ではなく、その四隅が竹により補強され、それがいかにも芸術的だったことである。囲炉裏のある居間と共に翌日の企画の為に東京から持参された貴重な品々も見学することが出来た。その後、資料館へ行き、御宿地区の貴重な古い生活用品と共に五倫文庫を見学した。日本を含めた各国の古い小学校教科書に懐かしさを覚えた人々でなかなか去り難い状況であった。そして、資料館敷地内と御宿小学校の菩提樹を見学した。両方共すくすくと育っており、傍らに立てられた石碑は千葉県内では一番立派であると理事長が仰っていた。最後の訪問先は、長南町にある「あしたの国シュタイナー学園・こども園」である。ルドルフ・シュタイナーの思想を継承し「人間であること、自由であること」を理念として2004年に設立された学園である。校舎は元蕎麦屋を改装したもので、1~3年の低学年4名、6年生7名の子供たちが元気に学んでいた。校舎内を見学した後、教育方針等の説明を受け、学園の保護者特製の温かいスープやお菓子を頂きながら意見交換を行った。(裏面へ)

ー今後の主な催し物案内ー

1. ドイツ軍人慰霊祭

日時：11月18日(日)11:00より

場所：船橋市習志野霊園

(JR 総武線津田沼駅北口よりバスで15分、「自衛隊前」下車。自衛隊正門に向かい左方向50mの所を右折して7分、右側に霊園入り口があります。)

なおらい

直会：12:15より自衛隊構内にて

会費：2,000円

申込：同封のはがきで11月12日(月)必着。

2. クリスマス・忘年会のお知らせ

日時：12月8日(土)17:30~20:00

場所：「レストランまんりょう」麗澤大構内

柏市光ヶ丘2-1-1

電話：04-7173-3595

常磐線(千代田線)南柏駅東口の1番乗り場より出るバス(行き先不問)で5分の「廣池(ひろいけ)学園」で下車、校内を通り3~4分のキャンパスプラザ内。

会費：4,000円

その他：キャンパス見学会、当日の飲み放題、飲み物持込みなどに関する詳細は別紙を参照して下さい。

申込：同封のはがきで、11月20日(土)必着。

(前頁より)印象的だったのは、自由にのびのびと勉学を進め、独創性と積極性を重視する点が他の小学校とは異なっていたこと。予定した訪問・見学を終え、ほぼ予定通り午後7時過ぎに出発点へ帰着。最後に、安全に目的地まで導いて頂いた武井観光バスの西村運転手に御礼を言い、散会となった。非常に難産であった本バス旅行も、素人の添乗員ながら皆様のご協力により大成功裡に終わりました。参加者の評価も非常に高かったと自負しております。その一因として、宗宮会長と橋口副会長の訪問先に関する事前の説明は予備知識として非常に有意義であった。無事に終えましたこと、皆様のご協力に感謝申し上げます。

(理事、にわか添乗員 渡部武弘)

(宗宮会長からのお詫び) 今回のバス旅行は行楽シーズンの週末の渋滞を避けるために平日に実施しましたが、学校やお勤めのある会員の方々への配慮に欠けたものになりました。心からお詫び申し上げます。次の機会にはこの反省を生かしたいと存じます。

(新入会員紹介)(平成23年2月以降入会順、敬称略)

H23: (法人)メルセデス・ベンツ日本株式会社 習志野事業所

(個人): 里見靖男、松本恭子、松本志げ子、志賀久徳、渡部武弘、小池定直、新藤紀子、山尾周太郎、栃谷修次、清川圭三、佐藤公男、岡崎隆二、

◎ 習志野ドイツフェア

今年も「習志野ドイツフェア」が10月13、14日、JR津田沼駅南口前の公園、モリシアビルで開かれた。第一次大戦中習志野俘虜収容所が置かれていた同市では、この歴史的財産とドイツとの交流を紹介し、併せて地元の飲食店の活性化を狙うグルメフェスタを抱き合わせる異色な催し。当協会は市の要請で行事を後援し、「習志野俘虜収容所」「ドイツと千葉県」「千葉県日独協会の活動」のテーマで写真展を行った。

初日の土曜日は爽やかな青空の下、来賓の宗宮好和会長が俘虜だったカール・ヤーンら5人が当時では秘伝のソーセージ製法を教えてくれた話を紹介しながら「ソーセージ発祥の地・習志野はもっと知られて良いのではないかと挨拶した。賑やかなドイツ色を、との市の希望に須古正恒・常任理事が奔走し、清水信治、福康子両氏によるアコーディオンとピアノの合同演奏が実現した。お二人は銀座のドイツレストラン「ゲルマニア」などで活躍の人気アーティストだが、「ドナウ河の漣」「会議は踊る」など20曲を2日間にわたり、破格のサービス演奏を行い、会場を大いに盛り上げた。また写真展では、多くの人たちが88枚の写真、35枚の説明パネルを熱心に見入り、質問を重ねる婦人たちも多く、入会希望者も出るほどだった。(理事 田中正延)



当協会写真展



演奏する清水氏と福さん

◎ 「会員による諸活動」

F. シューベルト歌曲集「冬の旅」D.911

バリトン 伊賀美 哲氏(当会会員)リサイタル
ピアノ 野本 哲雄氏

日時：2013年2月3日(日)14:00開演

場所：京葉銀行文化プラザ(JR千葉駅東口徒歩2分)

入場料：1,000円(全席自由)

問い合わせ：090-9327-7609(椎名さん)